

「国際生物多様性の日 記念シンポジウム：九州・沖縄 の生物多様性の保全と活用」開催報告

森林総合研究所九州支所は、平成27年6月14日（日）くまもと県民交流館パレア 10 階 パレアホール(熊本県熊本市中央区手取本町8-9)にて、平成27年度国際生物多様性の日 記念シンポジウム「九州・沖縄の生物多様性の保全と活用」を開催しました。

当日は、県外からの来場者を含め、186名の方々に参加いただきました。

講演開始前には、講演会場外側のロビーで、高校生によるポスター展示を行いました。事前に応募いただいた高校の生徒さんが、部活動等による生物多様性に関する調査・研究の成果をポスター発表し、講演者をはじめシンポジウム参加者と活発に意見交換しました。

講演会では、はじめに主催者を代表して小泉透研究コーディネータから、「生物多様性の日記念シンポジウム」の開催趣旨を説明し、講演に入りました。

最初に、湯本貴和京都大教授から「九州・沖縄の生物と文化の多様性から学ぶこと」と題して、九州・沖縄地域における自然と歴史や文化との関わりについて講演していただきました。

次に、小高信彦九州支所主任研究員が、「亜熱帯の島にくらす希少鳥類の保護と外来種問題」と題して、鳥類を例に世界自然遺産候補になっている「奄美・琉球」における絶滅危惧種の保全と外来種対策について解説しました。

その後、休憩・再開後に、小南陽亮静岡大教授が「綾照葉樹林における生物多様性の探究と学校教育への応用」と題して、綾長期モニタリングサイトでの成果を解説し、その学校教育への活用の可能性について議論しました。

最後に、岡野隆宏環境省生物多様性地球戦略企画室室長補佐が「生物多様性地域戦略と地域づくり」と題して、生物多様性保全を地域づくりに生かしている事例を紹介し、生物多様性地域戦略策定の意義を解説しました。

講演後の総合討論では、生物多様性の文化的価値としての評価、長期モニタリングデータの視覚化や教材化、地域における生物多様性保全に関わる人材育成等について会場の参加者も参加して、講演者と活発に意見交換しました。

高校生約40名をはじめ次代を担う若い世代の参加者が多く、生物多様性へ理解を深める一助になったと考えます。

なお、シンポジウムには生物多様性条約第10回締約国会議（COP10 愛知）で議長を務められた松本元環境大臣もご臨席いただき、ご発言を賜りました。



写真 1．高校生ポスター展示の様子



写真 2．会場内の様子